

# 定期巡回第2回運営推進会議 議事録

平成28年度 第2回

開催日	7月16日(土) 10:00~11:00	場所	霞ヶ関中央クリニック 1階ホール	議長	松本
出席者	池袋病院：水村 霞ヶ関南病院：宮川・木村 霞ヶ関地区民児協：大室・鶴見 地域包括支援センターかすみ：猪鼻・赤沼 地域包括支援センターだいとう：古田 定期巡回コール：松本・田島・川崎・西田 ※敬称略				

議事内容（記載者：西田）

## 1. サービスの実施状況について報告

- ・ 事業がスタートして半年が経ちますが、利用者数は13名~14名とあまり変動なく推移しています。その中でも元気になってサービス終了となったケースや、退院後新規で受ける方もいました。6月の新規2名については、いずれ霞ヶ関南病院を退院した方の利用になっています。
- ・ 訪問件数は徐々に増加していますが、これは状態の悪い方へのかかわりが増えているということが挙げられます。
- ・ 随時の対応は30件/月
- ・ 夜間は一桁程度の件数で、深夜帯ではなくて20時~22時に落ち着かなくて訪問するケースあり、又は日中排泄が間に合わずというケースがあった。
- ・ リスク対応について3つのCASEを報告した

## 2. 事例報告

### 事例1

- ・ 高齢者夫婦2人暮らし、元々内服薬が飲めないというところからサービスはスタートしたが、生活状況も見えずらく、そこもカバーするために朝・夕や朝・昼・夕など1日2~3回の訪問を実施していました。問題点は、夫婦ともに認知症があり、いつ出かけるのかわからないため、GPS機能付きの携帯をかばんに入れてはいるものの、そのかばんを持たずに出かけることもたびたびある。今は立ち寄り先のお店の協力も得るなどもケアマネさんと一緒に始めています。今後どこまで2人で暮らし続けることが可能かを、娘さんと話し合いながら決めていこうかと考えています。

### 事例2

- ・ 高齢者夫婦2人暮らし、夫は要介護、妻は要支援。妻が夫の介護をしているのですが、問題点としては、奥様の体調管理についても旦那さんのサービスの中で看るということは介護保険上難しいということもあって、随時コールが全て奥様のためのサービスになりがちということもありました。そこで奥様の体調管理については訪問看護を入れるという形をとりました。医療職のスタッフが関わることで奥様も落ち着いてきている状況です。
- ・ この他にも認知症の高齢世帯が7割あるなかで、近隣の方や民生委員の方の声掛け等も一緒にやっていけたらと感じています。

### 3. 意見交換

- この会の名称をもっと馴染みやすいものにしたいと考え、優しい輪をつないでいけたらという想いから、「ゆうわ会」ということで提案⇒決定
- 随時訪問は家族や本人からの依頼中心なのか？  
→それ以外に、緊急コールを押せない利用者さんの場合は、スタッフの判断で様子を見に行ったりもしている。
- 事例1の方のケースについて、娘さんがどれだけ状況を理解されているのかによろと思います。近隣の方へは、ゴミ当番が回ってきた際にそれができない状況ということもあって、オープンにするという形がとれたという経緯があります。
- 近所の人たちがどれだけ協力体制にあるかは大事
- 難病のケースも1件あります。徐々に進行しているので、進行に合わせて関わりも増えてきています。
- 通所系サービス併用者は、14名中8名
- 小規模多機能を利用している方で在宅サービスを希望している場合、経済的な面も含めると定期巡回に向いているのか？  
→このサービスは定額制で介護度にもよりますが基本的に月の単位は高く、施設に入所しているのときほど変わらないくらいの負担になります。24時間受けるという部分から、8割がた定期巡回の単位で占められてしまうので、日中外へということで通所系サービスを併用する方は1回が限度で、それが2回以上となると、月2~3万は自費になってしまう状況です。また半月とかでもサービス利用は可能ですし、施設入所前に1クッションということでの利用もありだと思えます。
- 近隣地域へのサービス展開をしていますので、遠くて日東町の方です。
- 看護師が入っているケースは、薬の配薬と病状観察・医師との連携があります。
- 介護度が軽いけれども症状によっては訪問回数が頻回になることが多いです。ですので、介護度が重いかからと言って訪問回数が多いとは限らない現状です。

#### ○次回開催について

- 11月12日(土) 10:00~11:00 霞ヶ関中央クリニック 1階ホールにて